

博物館だより

No.53

平成22年9月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

予告 博物館友の会主催

「秋月の乱」135年記念行事

10月23日 開催!

明治9年(1876)10月に豊津台地で戦鬪が繰り広げられた「秋月の乱」から135年目になることを記念して、

筑前琵琶演奏(新曲「秋月の乱」披露) 講堂「思永館」にて。

来る10月23日に次のとおり記念行事を行います。詳細につきましては、10月1日号の博物館だよりにてお知らせ致します。乞う御期待!

秋月の乱とは?

明治9年(1876)10月、明治政府の政策に不満を抱いた旧秋月藩士(秋月党)約200名が起こした反乱。秋月党は旧豊津藩士と合流するため秋月から豊津までの約60kmを行軍。しかし、豊津で秋月党を待ち受けていたのは、乱に反対する旧豊津藩士たちと、小倉から駆けつけた政府軍であった。豊津台地での戦鬪で秋月党は多数の死傷者を出して敗走。この時の戦死者がみやこ町豊津の甲塚墓地とみやこ町節丸に埋葬されている。

開催日

平成22年10月23日(土)

午後1時00分〜

開催場所

福岡県立育徳館高校

グラウンド及び講堂「思永館」

内容

秋月藩林流抱え大筒演武

育徳館高校グラウンドにて。



▲秋月藩砲術 林流抱え大砲

博物館友の会

講演会&現地見学会

博物館友の会では、次のとおり文化講演会及び現地見学会を開催致します。現地見学会の交通手段を準備する関係上、事前の申込みが必要です。受講希望の方はお早めにお申し込みください。

■日時 平成22年9月19日(日) 午前10時00分〜

■内容 国指定天然記念物の築上町「本庄の大樟」についての講演と現地見学。博物館で1時間程度の講演を聴いたのち現地見学へ。12時30分頃終了予定です。

講師

築上町教育委員会

文化財担当係長 高尾栄市氏

その他

友の会の会員でない方は、資料代等として実費500円が必要です。

9月期の歴史講座

【漢詩講座】

9月4日(土) 9:30〜

【古文書講座】

9月11日(土) 10:00〜

【古典かな講座】

9月18日(土) 9:30〜

【金曜古文書講座】

9月24日(金) 10:00〜

【みやこ学講座】

9月25日(土) 10:00〜

《古文書解読コーナー》

① 百味

② 〈ヒント〉 雨天

③ 法也

④ 〈ヒント〉 「いろいろな品物」の意

⑤ 息女

⑥ 〈ヒント〉 思いがけないこと

⑦ 聖

⑧ 〈ヒント〉 きざみタバコを吸う道具

⑨ 聖

⑩ 〈ヒント〉 メニュー

◎ 答え

(反対向きに見てください)

- ① 百味
- ② 雨天
- ③ 法也
- ④ 息女
- ⑤ 聖
- ⑥ 思いがけないこと
- ⑦ 聖
- ⑧ きざみタバコを吸う道具
- ⑨ 聖
- ⑩ メニュー

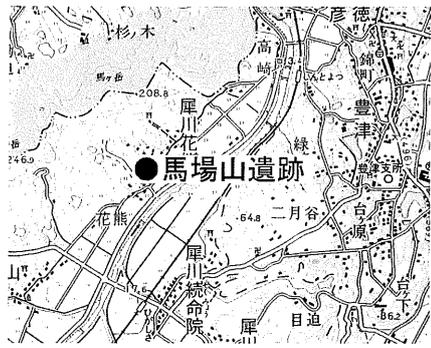
みやこの歴史発見伝 41

みやこの地下からの熱い!? 発見

— 馬場山遺跡発掘調査事業(第二次)の概況報告 —

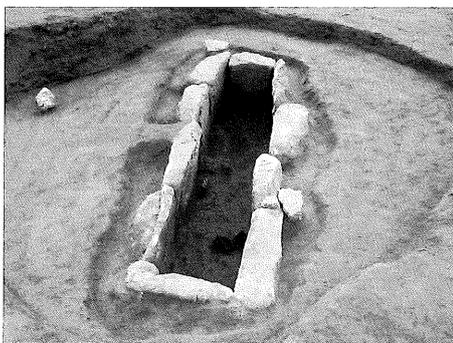
暑いー熱いー発掘調査現場

この号が出る頃には今夏の記録的猛暑も少しは収まっていることを期待したいのですが、町内を含む京都平野各所で現在も行われている発掘調査現場ではこの夏も「熱い」発見が相次いでいます。町内外でも希少な発見があれば、スタンダードな発見もありと内容はさまざまですが、今回は最新の情報を「熱い」うちに皆様にお届けしたいとの観点から、先頃調査が終了したばかりの馬場山遺跡について、その「熱い」発見の内容の一部をご紹介します。みたいと思います。



▲馬場山遺跡の所在地(1/25,000管内図)

馬場山遺跡は、みやこ町犀川花熊の「馬場山」と呼ばれる地内に在り、地元ではその名の通り「馬ヶ岳城の殿様の馬場があつたトコ」という伝承を持つ地です。実際に現場は伐採さえすれば馬の調教はもちろん、100m走も出来そうな広い尾根なのですが、そこに古墳時代(約1700~1300年前)の墳墓群があることで知られており、保全を図るべき「周知の遺跡」として登録されました。しかし、今回遺跡の一部で造成工事が計画され、計画上遺跡の破壊が不可避であることから、やむなく発掘調査を行う、記録に依る保存を図ることとなったのです。



▲神器が出土した8号石棺墓(北から)



▲円墳内の石室の様子。天井はないが壁面が残る

調査は都合により2回に分けて実施され、1回目目が平成19年度に(調査概要は博物館だより19号で紹介)、2回目の調査は本年5月14日に始まって8月末に終了、調査区から円墳1墳墓5・土坑6などの遺構が見つかりました。遺構からはコンテナ5箱分ほどの遺物が出土し、幾つかの「熱い」発見がありました。

馬場山遺跡の調査は終わりましたが、そのほかの遺跡では「暑い」季節と「熱い」発見がまだまだ続くのかも知れませんね。

(木村達美)

馬場山遺跡からの「熱い」発見

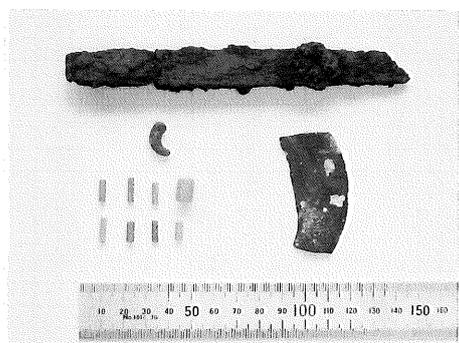
①「三種の神器」発見!

墳墓の多くは石棺墓とよばれる板石を棺状に囲んで作ったタイプのものでしたが、そのうちの一基からいわゆる「三種の神器(鏡・玉・剣)」が出土しました。

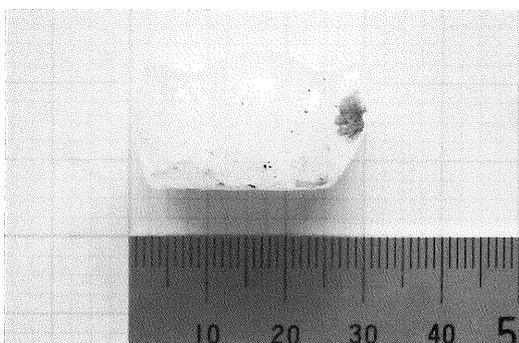
神器とはいっても実際には鏡は幅4cmほどの破片、玉は長さ1.5cmほどのガラス製の極小曲玉、剣は刀子とよばれる全長15cmほどの小刀状のものといったミニサイズのセットで、一般にイメージされるような豪華なものではありません。ただ、そうしたものではあっても王権のシンボルとしての意味は十分なことから、墓の主は最低でも花熊地区を支配下に置く小首長(ローカルな王)であったと考えられます。

②希少資料「三輪玉」出土

調査区内には直径約12m高さ約3mの円墳1基があり、調査区内でも目玉となる遺構として注目されてきました。しかし発掘の結果、中心部の石室が後世にかなりの盗掘・破壊を受けていることがわかり、目覚ましい発見は期待薄となっていたのですが、意外にも貴重な遺物が1点、盗難を免れて



▲神器(左下から時計回りに管玉・曲玉・刀子・鏡)



▲出土した三輪玉(側面から見たすがた)

石室入口付近から見つかりました。

「三輪玉」と呼ばれる刀の柄飾りに用いられるみたらし団子形の玉で、水晶で作られていました。この種のものには九州でも数例しか発見例がないとされており、町域を超えた希少な発見といえそうです。

この他にも遺跡からは縄文

(落とし穴? : 石鏃)・弥生(貯蔵穴・土器)・室町(埋納奈良火鉢)といった当初予想されていた古墳時代とは異なる時代の遺構・遺物が見つかるなど新発見が相次ぎました。